自由民主党鈴鹿市議団　森　雅之 議員

水道事業及び下水道事業の今後の見通しについて

（質問）水道料金・下水道料金改定について伺う。

（答弁）水道使用料の料金算定期間は、料金の安定性、期間的負担の公平、原価把握の妥当性および水道事業者の経営の健全化など、さまざまな要素を考慮し、算定時より、おおむね３年から５年を基準に設定しなければならないとされている。下水道使用料の料金算定期間についても法令による規定はないが、公共料金の安定性などから水道事業と同様であることが望ましいと考え、５年ごとに見直しの必要性を検討している。

新緑風会　河尻　浩一 議員

こどもの福祉の現状と課題

（質問）①本市における児童虐待の件数について、②総合支援コーディネーターや心理士などの増員と採用について問う。

（答弁）①受付件数は、過去３年では年間300件前後を推移しており、令和７年度は前年度から減少した。一方で、支援や見守りなどの対応件数は増加している。②総合支援コーディネーターの増員により、より多くの支援が期待できる一方で、職員を含めた実施体制の検討が必要である。切れ目のない支援、教育と福祉の連携強化に心理士は不可欠であり、今後慎重に検討を進める。

自由民主党鈴鹿市議団　宮木　健 議員

こどもの居場所づくりについて

（質問）公設のこどもの居場所について、白子にある子育て応援館が令和10年以降除却・譲渡としているが、立地的に公共交通に隣接した場所であることから、遊べる図書館と複合化した子育て拠点にできないか。

（答弁）子育て応援館については、公民館等周辺施設の集約・複合化を含めて施設の利活用を希望する事業者の有無を確認するため、サウンディング型市場調査を実施したところであり、引き続き民間事業者との対話を重ねることにより利活用の検討を進める。

その他の質問 ○公共交通の取り組み

市民の声　中西　大輔 議員

資産と財政マネジメントについて

（質問）財政調整基金と公共施設整備保全基金の役割を明確に分け、データに基づいて必要額を設定し、計画的に積み立てて運用してはどうか。公共建築物、インフラ、物品を資産として、財政面も含め一体的なマネジメント計画を策定してはどうか。

（答弁）財政調整基金は令和９年度末残高80億円を目標。公共施設整備保全基金残高は十分でない認識だが、施設整備に関する財源確保に努めた上で、収支の調整は財政調整基金を活用する。物品については、各年度の予算編成過程で調整していく。

市民の声　薮田　啓介 議員

学校教育と生成ＡＩについて

（質問）学校教育の中での生成ＡＩ利用について本市は先進的に取り組んでおり、生成ＡＩを活用できるこどもを育てることも重要であると考えるが、生成ＡＩの間違いや意見誘導などにはどのような対応をし、こどもたちのシチズンシップをどのように育てていくのか。

（答弁）生成ＡＩは答えを得る道具ではなく、自分の考えを深めるために活用する。ＡＩの回答をうのみにせず、情報の正確性を確かめ、多様な考えに触れながら自ら考えて判断し、自律して行動する力を育てていく。

その他の質問 ○生活保護行政の自立支援

無所属　矢田　真佐美 議員

教職員の働き方について

（質問）小学校学級担任が下校後まで休憩を取れていない現状の解決について問う。

（答弁）労働基準法では労働時間が６時間を超える場合、45分の休憩をとることが義務付けられているが、小学校教員は、給食時間に給食指導を行ったり、児童の体調観察安全確保の対応を行ったりする必要があるため、児童下校後に休憩を取ることが常態化している。教科担任制など教職員の働き方改革を進めることで学級担任が適切に休憩を取得し、心身の健康を維持できる体制を整える努力をする。

その他の質問 ○自転車に関連する交通事故